

特色ある教育活動及び総合学科と工業科の連携【参考資料】
(開設準備委員会（第2回）資料の再掲及び第2回での発言)

1 統合校に引き継ぎたい特色ある教育活動

【下北地区統合校教育内容等情報交換会での意見】

- 地域のことを学び、地域と交流する教育活動
- 大湊高校で取り組んでいる探究活動や「外まなび部」などの教育活動
- 地域や企業、研究機関との連携による共同開発など、地域に貢献する教育活動
- 成果発表会の開催など、地元の中学校に高校を知ってもらう教育活動
- 第三種電気主任技術者認定校の要件を満たした教育課程

【下北地区統合校検討委員会からの要望】

- 地域特性を活かした科目及び今後求められる人材育成に必要な科目を設定すること。
 - ① 海洋科学、環境科学、原子力・自然エネルギー、ICT等の研究者や技術者の育成に寄与する科目
 - ② 看護師、介護士、保育士等、地域が必要とする職種につながる科目
- 資格取得に有効な現行の科目を維持・継続すること。
- 第三種電気主任技術者認定校の機能を継続すること。

【学校関係団体、産業関係団体等との情報交換等における意見】

- 学科が決まっているとしても、コンピュータや原子力等を学べるコースの設置等を検討すべき。
- 授業以外の放課後や長期休業中の講習等を活用し、地元の企業を講師に呼ぶ等して、資格取得ができる環境を整えてほしい。
- 両校の特色ある教育活動を統合校にもしっかりと引き継いでほしい。
- 統合校はたくさん挑戦し、成功と失敗をたくさん経験できる高校にしてほしい。今の高校は限られたカリキュラムの中で教育活動を行っており、生徒の失敗経験が少ないと感じている。地域との関わりを増やし、アウトプットの機会を増やしてほしい。
- 統合校は間口を広げ、地域との活動をたくさん行う高校にしてほしい。
- 高校生のうちに色々なことを経験させたいと思うし、地域の色を出した教育もできるのではないかと考えている。
- 地域のことを学ぶために、地域の歴史、地域の地理、地域の経済等といった、「地域」という文字をつけた授業を、統合校では増やしてほしい。

【大湊高校からの提案】

○防災について学ぶ「下北BOUSA I ネットワーク」

下北管内の県立学校（大間、大湊、むつ工、田名部（全・定）、むつ養護学校）が共同で防災への取組を行っている。

○Universal Design for Learning（UDL）を取り入れた学び

学習に関する具体的なプロセスに「オプション（選択肢）」を組み込んで、多様な生徒に対応する授業を行っている。

○ねぶた運行

文化祭前日に毎年実施しており、地域の風物詩となっている。

2 統合校の新たな特色ある教育活動

【下北地区統合校教育内容等情報交換会での意見】

- 実践型のインターンシップの拡大や、地域の小・中学校と高校による系統的なキャリア教育の推進、関係校それぞれのキャリア教育の強みの融合などにより、生徒の多様な進路へ対応する教育活動や進路指導の充実
- 総合学科と工業科の併置によるメリットを生かし、補習等で工業簿記を行うなど、職業資格の取得につながる教育活動

【下北地区統合校検討委員会からの要望】

- 資格取得に有効となる新たな科目を創設すること。
- 県内の他の拠点校と連携し、オンラインでの履修を可能とすること。
- オンライン授業に対応できる環境を整備し、世界中の学校と交流できるグローバルな教育を実現すること。

【学校関係団体、産業関係団体等との情報交換等における意見】

- 大湊高校とむつ工業高校の授業を引継ぐだけでは足りない。新しい学校では新しい教育をすべき。
- 統合校はたくさん挑戦し、成功と失敗をたくさん経験できる高校にしてほしい。今の高校は限られたカリキュラムの中で教育活動を行っており、生徒の失敗経験が少ないと感じている。地域との関わりを増やし、アウトプットの機会を増やしてほしい。(再掲)
- 統合校は間口を広げ、地域との活動をたくさん行う高校にしてほしい。(再掲)
- 高校生のうちに色々なことを経験させたいと思うし、地域の色を出した教育もできるのではないかと思っている。(再掲)
- 地域のことを学ぶために、地域の歴史、地域の地理、地域の経済等といった、「地域」という文字をつけた授業を、統合校では増やしてほしい。(再掲)
- 総合学科と工業科における決められた科目だけではなく、地域に必要な科目と一緒に考えて作ってほしい。

3 総合学科と工業科の連携

【下北地区統合校教育内容等情報交換会での意見】

- 総合学科と工業科の併置によるメリットを生かした学科・系列等の横断的な学びにより探究学習の充実と深化を図る。
- 学科・系列の専門性や系統的な教育活動を基本としつつ、以下のような教科・科目の履修選択の枠組みを検討することも考えられる。

【自然科学系列と工業科の連携】

- ・ 製品の共同開発、試作、データ分析のものづくりの一連形態を学習。
- ・ 自然科学系列の生徒が、工業科の設備を活用することで、高いレベルの研究等による進路選択の幅の広がり。

【健康福祉系列と工業科の連携】

- ・ ユニバーサルデザインや地域の医療福祉分野に関する調査・研究から、ものづくりへつなげることによる教育活動の充実。
- ・ 健康福祉系列の生徒が介護実習等において、介護備品の不便と思う点に対し、工業科の技術を取り入れ、その不便さの解消。

【情報ビジネス系列と工業科の連携】

- ・ 情報コースにおいて、資格指導や、情報技術分野の知識・技術の高度化によるビッグデータの解析・活用方法などの学習の充実。
 - ・ 多面的な地域課題の発見・解決に向けて、工業科がつくり上げた製品を活用して、地域ブランディング力やマーケティング力を育成する取組。
 - ・ 高性能な設備の使用や、専門性を有した教員の指導による、分野横断的な学びの受講。
- 生徒が興味・関心や進路志望に応じて、主体的に取り組めるよう、専門の教科・科目だけでなく、課題研究等での連携・実践を通して、思考力や探究力などの力を育むとともに、知識や技術を習得し、地域を支える人財育成にもつなげる。

【大湊高校からの提案】

○総合学科生徒と工業科生徒との協働プロジェクト

例えば、健康福祉系列の生徒と工業科の生徒が共同で医療機器の設計や改良を行うプロジェクトなどが考えられる。

○学科を越えた自由選択科目の設定

教科・学科横断的な学びにより、これまで各校で進めてきたSTEAM教育、アントレプレナーシップ教育がより充実したものになる。

【委員会当日の発言】

- 統合校の教育活動は、アントレプレナーシップと教科横断的な学習がメインだと思っている。また、大学科を越えての自由な選択履修ができれば良い。統合校では、下北版のSTEAM教育を行うことができれば、生徒たちにとって素晴らしいことだと考える。これらの取組によって、総合的な探究の時間や課題研究を充実させ、キャリア教育につなげていくことができれば、充実した教育課程の実現が図れるのではないかと考える。